

# アシユラ 第5号 1970.10.6. 学苑会情宣部 委員長 小島保雄

## （連絡室一二号館学生室）

当会は一九六八年七月三日の学生大会で「子上げ以降、高齢者に及ぼす影響の研究」の大問題アカデミーの、学苑会委員会委嘱研究会にて、昨日十月五日、正記の通り全員にて自己批判しました。

### 自己批判書

一九六八年七月三日の「学苑会委員会」にて、我々が指導したことと認めたもの。

一九六八年七月三日の「学苑会学生大会」をテーマ上にあたることを認めたもの。

一九六八年七月三日の「アシユラ」にて学苑会学生大会として開催、現在に至るまで、「学苑会」を題材として、全二論文による京乱に落し入れ、当局の政治教育政策と一体化したことと認められる。

一九七〇年五月二九日、二文式中止とする反差に對しし、二口丸と相手にこと異なる

我々が普段つける荷物を重く負か致します。

又上、個々自己批判します。され、今後我々は「学苑会委員会研究会」なる名

称由、把柄にて使用しないことに又意に申す。

一九七〇年十月五日

二四四号平二組四十分

原稿用紙

明治大学全二部学生会議

暴力的(?)併列(?)にこれと書いたのです。(印)

(印)

学苑会小集保存部

明治大学全二部学生会議

暴力的(?)併列(?)にこれと書いたのです。(印)

(印)

学苑会小集保存部

明治大学全二部学生会議

暴力的(?)併列(?)にこれと書いたのです。(印)

(印)

当該者が我々に対しても何をもったたの問題のか。当該の前記は「暴力」として被りぬけてある。しかしながら、学友議會、設置は右記の通り、一九六八年七月三日午後十時半頃、学舎にてメント・角材で武力として襲撃しておこなった。されば何を意図するのか。彼らは「斗つ者」として「暴力」を行使するが、「対校力斗争」においては、一切の「暴力」を行はねることはしない。(この社会科教の本職までアルジョワジーの「暴力」が実験されつづけられ、被らぬきの未練の一結晶としての役割しか果していなし。)80年9月の「全井半連動会」では、我々に向ふ手元にのぞむうが。「学生」としての存在が向われ、また泡鳴も暴力行為であることを認めた。そして、我々は「被説」を承認したのだ。彼等はされに對し、右側の暴力的行為に對してはしなかった。されば「民主化」の名下に、丑四二十九日同名の学友に対しても口頭と加え、数人の荷物を奪つていった。それらは未だ改めて返却されどもらず、彼らのハレンチぶりには、あつた口からさがつた。

我々は、「人間」としての存在を問われて、この「大審斗争」が根深くに斗つて抜く中で、彼らが既に犯わんことをかねる前の四月廿五日

八管体制研究!

(複数回、学苑会委員会の四月廿五日)